

あらゆる束縛がなくなる

お金

時間

場所

自由な人生を 手に入れる教科書

濱田 大輔

Hamada daisuke

20代で3億円を稼いでセミリタイア
就職から逃げ回っていた
貧乏皿洗い大学生がたどり着いたのは、
時計もカレンダーもスーツも必要ない、

圧倒的に自由な世界だった…

雇われずに豊かに
生きる方法を記した
現代のサバイバルブック！



はじめに

僕が高校生だった頃、父と母が突如としてパチンコに狂った。

夫婦が30年以上かけて貯めた財産は泡のごとく消えて、家には猛烈な借金督促の嵐が吹いた。親戚から借りたお金も合わせると、借金はゆうに1000万円を超えていた。

電気やガスが頻繁に止まった。

裁判所から財産差し押さえ通告が届いた。

家がなくなると母がよく泣いた。

大学生になった僕は、学費と借金の利息を払うために、毎日アルバイトに明け暮れた。ファミレス、1000円ショップ、水産工場、レンタルビデオ店、カラオケなど。田舎だ

ったので時給700円前後が相場だった。ファミレスの皿洗いはとりわけ過酷だった。夢も、趣味も、勉強も、遊びも、恋愛も、すべてが二の次だった。ただ黙々と単純労働をして、稼いだ金を親の借金返済にあてた。親を捨てるほど非情にもなりきれなかった。

物質的な贅沢をしたなんて願わなかった。ただただ、毎日自由が欲しいと思いつながら働いていた。夢を追いたかった。趣味に没頭したかった。同世代の友人たちのように思い切り遊びたかった。旅行に行きたかった。不安から解放されたかった。一度きりの人生が、ただお金のための労働で過ぎ去っていくと思うと、たまらない気持ちになった。命が少しずつこぼれ落ちていくような気がした。

ある日ネットサーフィンをしていて、インターネットとパソコン一台あれば個人でも

ほとんどお金をかけずにビジネスができるらしいということを知った。僕には起業やビジネスの知識なんてカケラもなかったし、それまで興味をもったこともなかった。パソコンもせいぜいネットサーフィンしかできなかったし、人脈もなければ、子供の小遣いほどの貯金しかなかった。正直うさん臭いとも感じた。

でも、自由になりたいという思いが勝った。藁にもすがる思いだった。

インターネットビジネスに取り組み始めて初月で数万円稼げた。バイト以外で、自分の力でお金を稼ぐのはそれが初めての経験だった。ネットビジネスは本当に稼げると知って、僕は有頂天になった。バイト代の他に月20万円も稼げれば、借金も少しずつ返せ

るし、周囲にも面目が立つと思った。そして何より自由が手に入るかもしれない思った。大学を休学して時間だけはあったので、日々のバイトと並行しながら、一人でコツコツとネットビジネスを続けた。

その半年後、月収100万円を超えた。

僕も家族も呆然としていた。時給700円の皿洗いのもとに、見たことのない大金が転がり込んできた。ただの偶然だと思ったが、翌月も、その翌月も月収100万円を超えた。夜寝て朝起きると10万円くらい利益が発生している日も珍しくなかった。

僕の信じていた常識的な世界が崩壊した。永遠に尽きることはないと思っていた親の借金がすべて返せた。旅行をしても毎日何万円も勝手に利益が生まれる状況が出現

した。時には同世代のサラリーマンが1年かけて稼ぐお金が、たった数日で稼げてしま
うこともあった。数年でこれほど見事に人生がひっくり返るとは、自分でも思ってもみ
なかった。

もともとビジネスにたいした興味があったわけではないし、ビジネスよりは小説や音
楽のほうが好きだから、金銭的に不自由しなくなってからは、以前のように夢中で仕事
をするのはやめた。週休5〜7日の生活を数年続けた。僕の生活から「お金を稼ぐため
の労働」がぼつかりとなくなったので、代わりに僕が本当にやりたかったことの予定を
詰め込んでいった。

気になる場所へは帰りの切符を買わずにふらりと旅行に出かけて、飽きるまで何週間

でも滞在した。音楽を真面目にやりたいと思って音楽学校へ通い始めた。友人に遊ぼうと誘われればいつでもどこでも出かけていった。もともと読書好きなので一週間や二週間ひたすら引きこもって読書していることもあるし、ゲームも好きなので一ヶ月くらいゲームばかりしていることもある。社員など雇わないので対人関係のストレスもない。昼間に犬の散歩をしていると、よく近所の人にニートと間違われる。そんな生活をしていても収入はのびつづけて、今やパソコン一台で生み出したお金はゆうに三億円を超える。その大半は、不動産収入と同じような、僕がまったく働かなくてももたらされたお金だ。ちゃんと放置していても収入が発生する仕組みを作ったからだと思う。

正直今はこの自由な生活が当たり前前になってきて、お金がなかった当時の気持ち

少しずつ忘れつつあるのを感じる。でもあの頃の葛藤は、僕の人生で絶対に忘れたいものの一つだ。だから、完全に忘れてしまう前に、僕が歩んできた道のりや、自由を手に入れるために意識してきたことを書き残しておきたいと思う。

一部の天才とか、恵まれた環境にいる人じゃなくても、正しい方向で努力を積み重ねることができれば、ほんの数年でお金や時間に縛られない自由な人生を手に入れることはできる。金銭的・時間的自由だけでよければ、もしかすると一年もかからないかもしれない。僕だつてもととは、地方の有名でもない田舎大学に通いながら、時給700円前後で皿洗いやレジ打ちをする、知識・人脈・資金ゼロの、ただの怠惰な23歳だった（アルバイトばかりしていたので大学は留年していた）。そんな男でも、覚悟を決めて本

気で自由を目指してみたら、一年もかからずに金銭的にも時間的にも自由になれてしまった。

ただの皿洗い学生だった僕が自由になるまでの具体的な経緯と、その時感じた僕の動揺は、別著の『僕は雇われずに生きていこうと思った』で詳しく書いている(無料)。こちらも非常に好評なので、興味があれば読んでみてほしい。

僕のように資産家でもなんでもない若者が、パソコンとインターネットを使って自動収入の仕組みを構築し、誰にも雇われないで、20代にして大企業の社長よりも自由な生活を送っているというような現象は、20世紀以前の時代にはあり得なかったことで、極

めて現代的な生き方だと思う。「お金とは汗水流して働いて稼ぐもの」「良い会社に入って定年まで勤め上げるべき」というような既存の価値観に縛られている人にとっては信じがたい話かもしれないが、僕のような生き方はすでに特別ではない。インターネットを使えば、個人でも収益を得ることができ、実際にそれで生活している人がたくさんいる。情報革命によって人間の働き方は大きく変わり、会社に依存して時間と労働力をお金と交換しなければ生きていけなかった時代はすでに過去のものとなりつつある。これからは個人の時代だ。もしあなたが、お金や時間に縛られない自由な人生を手に入れたいと願うのであれば、今すぐそれを目指したっていい。それを目指してはいけない理由はどこにもない。

本書は自由を目指す人のために書かれている。本書を通じてあなたが今よりもっと自由度の高い、楽しい人生を手に入れてくれたら嬉しい。

目次

自由とは何か？

1、身体的自由

2、経済的自由

3、時間的自由

4、精神的自由

時給を上げようとしてはいけない

不労収入を確立する二つの方法

インターネットによって身近になった起業

- ・ 起業はほとんどコストをかけないのが当たり前？

- ・ 圧倒的なレバレッジのかけやすさ

なぜサラリーマンは馬車馬のように働いてもお金持ちになれないのか？

商品開発・仕入れ不要のビジネス

「商品開発・仕入れ不要」

「稼げる金額は青天井」

「ローリスク、ローコスト」

「作業場所、時間の自由」

「自動化が容易」

「ビジネスの実戦的スキルの向上」

一発屋に自由は絶対に訪れない

収入がゼロになるリスクをゼロにする

- ・収入の外部依存度を下げる
- ・収益源を分散する
- ・お金を稼ぐためのスキルを身につける
- ・第一部まとめ

思考があなたの人生を決定する

自由とは捨てることから始まる

- ・常識は他人たちの思い込みに過ぎない

汗をかいて働くことに意味はない

- ・社会に価値を提供する方法は様々

- ・なぜ1日4時間労働ではだめなのか？

本当のリスクを見極める

- ・いまだに終身雇用、年功序列の幻想を捨てきれない人たち

- ・過半数の人が1回以上職を失っている現実

- ・会社の倒産やリストラだけがリスクではない

- ・あなたにとってのリスクとは？

多様化してきた働き方

- ・ほのぼのゆるふわ系起業家

幸福な自由人になるための思考

- ・自由を信じ、目指し続ける
- ・ゴールからやるべきこと、やるべきでないことを逆算する
- ・成功者の思考、価値観をインストールする
- ・投資>貯金を実践する
- ・頑張らなくていい状態を作るために頑張る
- ・必要なものだけを厳選してリュックに詰め込む

・ 第二部まとめ

最後に——自由の最大のメリット

自由とは何か？

あなたは少なからず「自由になりたい」という思いがあつてこの本を読んでいると思う。しかし、そもそも自由って一体何だろう。定年後の老人はみんな自由だろうか？ トヨタの社長は？ ニートやホームレスは？ 無人島に流れ着いた漂流者は？ もし人生を誰かと交換できるとしたら、あなたは交換相手に彼らを指名するだろうか？

自由な人のことを「自由人」という。自由人の定義は、辞書によれば次のようになっている。

『自由人(じゆうじん) …何ものにも強制されず自らの運命を自分で決めることができ、

思いのままに生きる人もしくは人々』

あなたが目指す自由とは、まさにこのようなものではないだろうか？ お金のためにあくせく働かない人生。会社や人間関係にがんじがらめにされない人生。好きな場所に住み、好きなことに思う存分時間を費やし、好きな時に休み、一緒にいたい人たちと多くの時間を共有できる人生。自分の思い描く通りの人生を送れる人生。

前述したような人たちは、ある一面においては自由だ。ニート、ホームレス、定年後の老人たちの多くはたっぷりの自由時間があるし、大企業の社長は一般人から見れば使い切れないほどのお金を持っているし、無人島の漂流者はそもそも法にすら縛られない（罰する人がいないので）。

しかし僕から言わせれば、彼らは純粹な自由人とは言えない。なぜなら、ある一部の自由と引き換えに、他の重要な自由を手放しているからだ。

僕が考えるに、真の自由に必要なのは、以下の四つの要素だ。

- 1、身体的自由
- 2、経済的自由
- 3、時間的自由
- 4、精神的自由

これらのどれかひとつでも欠けている限り、その人は本当の意味で自由とは言えない。

1、身体的自由

ある所に巨万の富を持つ資産家がいるとしよう。彼が欲しいものは車でも家でも何でも手に入るし、彼の命令通り動く使用人が山ほどいる。書籍なども出版して名声も得た。もう働く必要もないので、自由に使える時間もたっぷりとある。

これだけ聞けば、彼のことを「うらやましい！」と感じる人も多いのではないだろうか。ではこの人物に関して、次のような情報を付け加えてみたらどうだろう。彼の年齢

は92歳。病院のベッドで管をつけて、もう何年も寝たきり状態。持病の心臓病が悪化し、頻繁にやってくる発作に常に怯えている…。

彼ははたして自由な存在と言えるだろうか？ 何ものにも強制されず、自らの運命を自分で決めることができ、思いのままに生きることができているだろうか？ 病院のベッドにくくりつけられ、白い天井を眺め続けることが彼の望む人生なのだろうか？ もちろんそんなはずはない。ベッドから身体を起こすこともできず、排泄さえままならないで、常に苦痛や死の恐怖に苛まれている状態では、いくらお金や時間があったって自由とは言えない。自分の人生を自由に生きようと思ったら、ある程度の健康な体は必要ということだ。

ただ、生まれつき障害などを持っている(手足がないなど)人が絶対に自由になれないわけではない。確かに選択肢は狭まるかもしれないが、その障害が彼の幸福や自己実現を妨げていない限りは、彼を不自由な人間だと決めつけることはできないだろう。例えば作家として生きたい人にとって、足がないというのはそれほど重大な束縛ではない。また家族やテクノロジーなどの支えによって、その障害は克服可能かもしれない。

2、経済的自由

自由とは言い換えれば、選択肢の多さとも言える。ということは、資本主義社会にお

いては、お金は自由を得るための必須のツールの一つだ。なぜなら選択肢というものは、大部分がお金で買えるものだからだ。

お金さえあれば、好きでもない仕事を延々と続ける必要もない。お金を気にせずやりたい仕事に打ち込めるし、夢を追い続けることもできるし、働く時間も休日も自由に決められる。都心のタワーマンションだろうが沖縄の離島だろうが海外のリゾート地だろうが好きな場所に住める。我慢して嫌な上司、同僚、隣人と付き合わなくて済む。三ツ星レストランのディナーも気兼ねなく食べられるし、欲しいものは値札を見ずにすぐ買える。疲れていたならグリーンシートに乗れるし、少々距離があってもタクシーを使える。病気になれば最先端の医療をうけられる。子供にレベルの高い教育を受けさせられる。

困っている人を助けることができる。遊びたければ年中遊んでいられる。もちろんいくらお金があっても解決不能な問題もあるが、人生の八〇九割くらいの悩みは、お金があればあっさり解決できてしまう(健康もある程度買える)。

ホームレスが自由と言えない理由は、人生のあらゆる場面において選択肢が圧倒的に限られているからだ。美味しいご飯が食べたいと思っても食べることができない。温かいベッドで寝起きすることができない。着たい服を着れない。旅行に行くことができない。適切な医療を受けることができない。家族を食べさせることも、お金がかかるプレゼントをあげることもできない。彼らが自由にすることができるのは、自分の時間と身体だけ。彼らは一見気ままな生活を送っているようにも見えるが、常に深刻な不安や欲

求不満と隣り合わせだ。

3、時間的自由

では身体がある程度健康で、たっぷりのお金を持っていればその人は自由なのかと言え、残念ながらそうとは限らない。いくらお金があっても、それを使う時間がなければ何の意味もない。例えば日本の首相の給料は、年収で言えば5000万円程度。資産もかなりあるはずだ。よほどの浪費家でもない限り、個人が自由に暮らしていくぶんには不自由するはずがない。

しかし彼が自由だと言う人はほぼ皆無じゃないだろうか。日々のニュースで見るだけでも、首相は明らかに忙しい。国会に出席して答弁したり、大臣や有識者たちと会議したり、外交のために海外を飛び回ったりと、分刻みのスケジュールに行動を管理されている。プライベートでもマスコミに追い回され、たまの休日にゴルフをしても、何か事件が起きればすぐに官邸に駆けつけて対策を立てなければならない。公序良俗に反することももちろんできない。もし首相が一ヶ月くらい南の島でバカンスをしたい、あるいは一ヶ月くらい家に引きこもって趣味の映画に没頭したいと思っても、彼が首相である限り絶対にその夢が叶えられることはない。

これは首相に限らず、大企業の役員とか、高収入のエリートサラリーマンなどについて

ても同じことが言える。彼らは確かにお金には困らないが、肝心のお金を使う時間が少ない。常にタスクやスケジュールに追われている。仕方なく通勤以外に使わない高級車を買ったり、寝に帰るだけの高級マンションを買ったりする。「今日は休みたいから休もう」なんて言っていたら、彼らはあっさり地位と収入を失ってしまう。

4、精神的自由

お金や時間がたっぷりあっても、やはり自由とは言えないケースもある。例えば一般的な社長たちは、仮に事業がある程度軌道に乗っていて、金銭的に不自由しなくなった

としても、心が休まることはなかなかない。社員の生活が彼の双肩にかかっているからだ。あるいは株主や顧客、取引先に対するプレッシャーもある。社長が遊んでいて万一業績が悪化したら、社員の生活が吹き飛ばし、顧客にも迷惑がかかるし、株主からも突き上げをくらう。だから多くの社長は、彼個人が生活するには困らないだけのお金を稼げたとしても、本当にのんびりした気持ちで日々を送ることができない。常に不安、焦燥、義務感のようなものにつきまとわれることになる。

デイトレードやFXなどで、リスクの高い投資をしている人たちもそうだ。たった一日で数万円、あるいは数十万円といったお金が増えたり、吹っ飛んだりするような状況は、例えかなり黒字で、投資経験が長い人でも、緊張感から解放されることはない。命

をすり減らしているような感覚に陥る人も多いだろう。高度に手法をシステム化して、まったく心に波風立てず機械的に大きな金額を動かせるのであれば、精神的に自由であると言えるかもしれないが…。

強い不安、恐怖、緊張、責任を感じている状態では、のんびりとした穏やかな気持ちにもなれないし、心からやりたいことに没頭することもできない。自由気ままに生きるためには、そもそも精神的に解放された状態である必要がある。

身体的自由、経済的自由、時間的自由、精神的自由。これら4つを兼ね備えたとき、はじめてあなたは本当の意味で自由人になれる。何ものにも強制されず、自らの運命を

自分で決めることができ、思いのままに生きることができる。

ではこれら4つを手に入れるためには、具体的にどうすればいいのだろうか。それは以下の三つの問題を解決することだ。

・健康

・お金

・思考

このうち健康に関しては、この本では取り扱わない。門外漢の僕が語るより、医者などが書いた専門書を読む方がはるかに有益だろう。本書では主に「お金」と「思考」に

ついて解説していく。

自由を手に入れるためには「お金」が必要だということはすでに書いた通りだ。健康を維持するためにも、欲しいものを手に入れるためにも、不安から解放されるためにも、お金は必須のツールだからだ。お金さえあれば、まず大部分の悩みは解決するし、人生の選択肢は大きく広がる。

他方、「思考」とは価値観や考え方のことだ。自由な人と不自由な人の最大の違いは、まさにこの思考の部分にある。あなたの人生はあなたの行動・選択によって決まるが、あなたの行動・選択は、すべてあなたの思考・価値観に従属するからだ。例えばあなたが「普通の人」が自由を手に入れるなんて無理」「普通に就職するのが一番安心」なんて思

つているとしたら、あなたは一生自由を手に入れることはできない。そう考えている時点で、自由に繋がる勉強や行動を一切しなくなるからだ。それどころか、給料の良い会社を探すとか、昇進するために仕事を頑張るとか、資格をとるための勉強をするとか、そういう自由に逆行する選択・行動を取り始める可能性が高い。自由に繋がっている道はすべてあなたの目に入らなくなる。もしあなたが自由を手に入れたいなら、自由を手に入れるための思考をまず手に入れる必要がある。

続きは[本編](#)をダウンロードしてお楽しみください。

【著者】だいぼん

株式会社GRASP代表。パチンコ狂の両親を持ち、借金まみれの極貧の家庭で育つ。皿洗いやレジ打ちなど、忙しいアルバイト生活を送る中で、自由を手に入れたという欲求が抑えがたくなり、就職活動を放棄。在学中にお金・知識・人脈ゼロの状態です。インターネットビジネスで起業。たった1人で5年間で累計3億円を売り上げる。収益を自動化した結果、本人が働く必要がなくなったため、20代にしてセミリタイア。音楽学校に通ったり、創作活動に打ち込んだり、旅行したりと、趣味中心の生活を送りながら、ブログやメルマガ、書籍等で個人が自由を手に入れるための考え方を発信している。

ブログ：<http://daipon01.com/>

メルマガ：<http://afr9.net/so/16.php>

ツイッター：<https://twitter.com/hamadai1008>

フェイスブック：<https://www.facebook.com/daipon01>

LINE@ID： @daipon (@を含む)